

《ホスピタリティ研究会》

塩尻ワイン大学公開講義開催

文／16期生 徳畑 哲司

この度、ホスピタリティ研究会は、長野県塩尻市ワイン産業振興本部との連携に基づき、実践的な醸造用ぶどうの栽培技術とワイン醸造技術、ワイナリーの経営手法を学ぶ「塩尻ワイン大学」の公開講義を9月16日(日)に開講しました。

本講義は塩尻ワイン大学の方への講義となり、我々のようなワインの素人がワインについて語るより、MBAらしく、ビジネスの視点からワイン産業を分析するという視点で行いました。

MBA課程ではお馴染みとなる経営戦略に関するポーターのフレームワーク(5フォースやバリューチェーン)、3C分析などを組み合わせることで、普段ワイン大学の方がご存じのワイン産業に対して、違う視点から見た新たな発見、気づきを提供できるのではと考えたためです。

また、昨年度のビジネスシミュレーションで塩尻のワイ



ン産業を扱った結果から、東京のマーケット理解が重要という意見もあり、東京のレストラン、販売、ワイナリーなどにインタビューを行い、その結果も説明いたしました。

メンバー一同、ぎりぎりまで修正を重ねて臨んだ講義でしたが、終了後に好意的な意見もいただき、一定の結果を残せたのではないかと考えております。



「日々是好日」

文／17期生 早川 圭子

数多あるビジネススクールの中で、立教大学大学院ビジネスデザイン研究科(RBS)を選択した理由が2つあります。ひとつは、単に専門知識の修得に留まることなく、多様な創造力を持つ「ゼネラリストのスペシャリスト」の養成を重視したカリキュラム編成に魅せられたことでした。

これまで実社会において20数年のキャリアを重ねるなか、ものごとを俯瞰して捉えること、課題を体系的に解決に導くこと、事業を創造していく視点等々、自身に足りない能力やスキルを実感しており、現状を打破することはできないか、専門知識を体系的に学べる環境と実務に直結する実践的な学びの場に身を置くことができなかつたかと思っていました中、RBSの存在を知り、門を叩いた次第です。

入学から半年が過ぎた今、体系的に理論を学ぶことの楽しさを実感しています。自身のマインドセットにも非常に効果的な環境に出会えたと思っています。その一方で、体系的に学んだことを実務で活かす、実践することの難しさも感じています。実務では学んだことの専門知識を活か

し、理論と実務との融合のトライ&エラーを重ねている中でもあります。しかしこのプロセスこそが、これ

までの自身に不足していた点かもしれません。この貴重な機会を積み重ねることで、俯瞰する力や事業を創造する力等を涵養していきたいと考えています。

2つ目の入学動機は、多くの方々との出会いがあったことでした。職業や経歴が様々な社会人の方だけでなく学部生卒、留学生とも一緒に学ぶ、語らう、懇親を深めることによりいろいろな物事の捉え方、考え方に触れることができ、多くの刺激を受けています。交流そのものが大変勉強になり、自身の視野も広がりつつあると感じています。また、先生方もとても親身にキャリアや実務上の課題などの相談に応じていただき、示唆に富んだアドバイスをいただくことができたのも貴重な財産、経験となっています。

